藤原宮跡の保全に関する地歴学者の意識調査について

近 藤 公 夫*・田 中 哲 雄**・細 井 睦 子**

On the tendency of geographers and historian's images,
about the conservation of Fujiwara Old Palace Ruins
By Kimio KONDO, Tetsuo TANAKA, Mutsuko HOSOI

7 世紀末の皇居、藤原宮跡、は近年の国道路線の設置に先行する試掘の結果、多数の遺跡や遺物の出土を見て世間の脚光をあびたが、平城宮に先行する皇居としてもそれ自体の保全が注目される所である。
筆者は昨年末、京大地理学教室を中心とする宮跡見学に参加し、地歴学者等約 100 名に宮跡の土地所有問題、同じく土地利用問題、および遺構の復元に関する問題の意識を質問調査した。

その目的は造型意匠に間接的な興味をもつ地歴問題の専門家が、この種の問題に如何なる態度をとっているかを分析して、造型意匠分野と彼等の分野の連帯を探ることにある。

そしてこの成果は従来の研究、筆者が試みた大阪府百濟寺跡史蹟公園における住民調査や平城宮跡の利用者調査など、と総合することにより史蹟整備の問題に示唆を与えるものとしても期待される。

なお、この調査に協力を頂いた野外歴史地理学研究会当局に紙上から感謝の意を表したい。
調査結果の要は別表の通りである。

なお、調査対象のもつ史蹟整備例の既知度についてみると、平均 2 人当り 1 例で、長岡宮跡、平城宮跡、登呂遺跡が既知例の過半を占めている。

また職業年令層別にみると、既知度の高いのは大学関係者の 21 才以上で 10 人当り 9 例、他は 4、5 人当り 1 例にすぎない。

調査結果はつぎの通りである。
史蹟の環境整備で前提となる土地所有の問題についてみると、公有化を希望するものが圧倒的多数である。

また公有化自体についてみると、宮跡のみを公有化する希望、これは「理想として広域環境の公有化を希望するが現実的な問題を考え宮跡範囲に限定する 4 例」をふくむもの、が広域の公有と等しく 2 人当り 1 人の平均と

なっている。
ただし、41 才以上の大学関係者が 5 人中 4 人まで宮跡の周辺をふくむ広域の公有化を主張し、史蹟と環境の連帯性を強調していることは、注目される。
史蹟の環境整備における基本方針、土地利用については、その史蹟を中心とした方針を主張するものが 10 人当り 8 人以上、その中でも教学の場とする利用が強調された。

すなわち、史蹟を中心とする整備の主張は大学関係者で 10 人当り 9 人弱、教職関係者で 10 人中約 8 人であり、特に遺物や遺構等の展示館、博物館といった文化施設の敷地としての土地利用を提案するものが、大学関係者で 10 人当り約 6 人平均、教職関係者で同じく約 4 人平均であった。

いま、仮に文化施設の敷地化という意見に 2 点、史蹟公園化に 1 点、その他に 0 点という評価を与えると、大学関係者は若い層から 1.5 点、1.3 点、1.6 点、教職関係者は 1.2 点、その他は 1.4 点という平均点を得る。

遺跡整備の意匠方針は、遺跡を地下に埋没させて保護する主張が 10 人当り 3 人弱、部分的にも建築として遺構

対象 属性	職 業 別 年 令 別	大 学 関 係			教職 関係	その他
		20才 以下	40才 以下	41才 以上		
土地 所有	公 有 否 定	0	1	0	0	0
	宮跡部分公有	4	14	1	12	7
	全 域 公 有	4	7	4	14	5
土地 利用	放 置	0	1	0	2	0
	普 通 公 園 化	1	2	1	3	1
	史 蹟 公 園 化	2	9	0	10	5
	文化施設園地	5	10	4	11	6
遺構 整備	全面地下保全	1	6	1	7	5
	公 園 緑 地 化	3	12	3	17	4
	1 部 遺 構 復 元	1	4	1	2	3
	全面遺構復元	3	0	0	0	0
合計（単位：人）		8	22	5	26	12

*奈良女子大学住居学科
**国立奈良文化財研究所

を復元する主張が10人当たり2人弱で約過半、遺構の部分的再建築をふくめば10人当たり約7人、は史蹟の公園緑地化を主張する。

ここで注目されたのは、土地利用で文化施設の導入を主張した層の多くが必ずしも遺構再建築を主張せず、遺構の建築復元と文化施設の導入は別個の発想であったことである。

何れにせよ、土地利用上で史蹟公園化が10人中約4人に支持され、遺構整備上で公園緑地化が10人中6人ないし7人以上に主張された事実は、この分野に対する緑地

関係者の責任を認識させる。

終りに学識者として、大学教官と41才以上の教職者、合計32名の問題意識を要約する。土地所有では全員が公有を主張して広域公有が10人中6人弱を数え、土地利用では文化施設を導入した史蹟公園化が、10人中5人強、遺跡整備では緑地化が、1部遺構の再現をふくみ、10人中8人に達していた。

これは“緑地化による史蹟環境の整備”という調査結果の要約、この階層の意識傾向、とみられるであろう。

(昭43.4.6受付)

日本における造園教育の実態（1）

造園学会の学術担当委員（小沢知雄常務理事、井手久登、萩原信弘各幹事）においては、造園教育の将来計画の資料とするため昭和43年1月、造園学の教育・研究の行われている全国諸大学の実態を知るべく、所属学科、研究者、研究テーマ、講義科目、専攻生、進路等について調査を行った結果、3月末までに下記の大学から回答が寄せられた。各大学の詳細な実態は追って順次報告する予定であるが、今回は関係学部、学科、講座、教官構成（教授、助教授、講師、非常勤講師、助手、技官等）の概況を示すこととする。

なおこの表の他、回答が寄せられなかったが、国立大

学においては新潟大学、金沢大学、神戸大学、香川大学、九州大学、山口大学等で、公立大学では京都府立大学、私立大学では早稲田大学、武蔵野美大、芝浦工大、南九州大学等、短期大学においては恵泉女子短大等で造園関係の教育研究が行われていることが予想されるが明確に把握されなかった。造園教育の場合は各種の学部、学科、講座にまたがっており、全国的な事情を把握することは甚だ難しく、さらに、講義科目としてのみ存在する場合が多いため、この調査にも遺漏があると思われる。会員各位方々より情報、忠告を賜われれば幸である。

(井手久登)

大学名	住 所	学 部	学 科	関係講座	備 考
国立大学					
北海道大学	札幌市北9条西9丁目	農学部	農学科	花卉造園学	教(1)、助教(1)、助(1)、技(2)
岩手大学	盛岡市上田9丁目18-8	農学部	林学科	森林経営学	教(1)
		〃	農学科		非講(1)
東北大学	仙台市北6番丁	農学部	農学科	園芸学	非講(1)
〃	仙台市荒巻字青葉	工学部	建築学科		非講(1)
宇都宮大学	宇都宮市峰町350	農学部	農学科	園芸学	講(1)
		〃	林学科	林業工学	非講(1)
千葉大学	松戸市戸定648	園芸学部	造園学科		教(3)、助教(4)、講(1)、助(3)
東京大学	文京区弥生1丁目1-1	農学部	農業生物学科	園芸学第二	教(1)、助教(1)、非講(4)、助(2)
		〃	林学科	林学第二	非講(1)、助(1)
〃	文京区本郷7丁目3-1	工学部		園芸実験所	助教(1)、技(1)
		〃	建築学科		非講(1)
		〃	都市工学科		非講(1)